

あきら
島田 明さん
(犬伏下町)



○プロフィール

合同会社e街佐野奉行所常務、
パパプロe街佐野奉行所奉行。
株式会社秀和建設代表取締役社長。
佐野北中PTA副会長。

キラリ★話題の「ひと」

佐野黒から揚げ誕生秘話

佐野市民を熱狂させている佐野黒から揚げ。その黒から揚げの生みの親であるパパプロe街佐野奉行所の奉行として代表を務め、4月からは合同会社e街佐野奉行所を立ち上げた島田明さんに誕生秘話や黒から揚げにかける思いを伺いました。

★パパプロe街佐野奉行所を立ち上げたきっかけは

『地方創生事業の一つで佐野の将来のため、子どもたちのために何かアクションを起こして欲しいと佐野市から依頼されたことがきっかけです。自薦、他薦でサラリーマン、自営業など10人のメンバーが集まり、そのメンバーがたまたまパパで、その当時、山城サミットで盛り上がりつつあったこともあり、歴史的で馴染みのある名前にしました』

★佐野の将来のためになぜ唐揚げだったのでしょうか

『産業でも、モノでもなんでも良かったんですが、「食べ物がいいよ」「じゃ唐揚げがいいよ」「でも普通の唐揚げではつまんなくない」「ソース味にしてみようよ」「色が黒ければ黒いほうがいいよ」という感じでソース味の黒から揚げが誕生しました』

★爆発的に売れるようになったきっかけは

『昨年3月の佐野カララゲフェスです。パパプロメンバー10人中6人がPTA関係者だったので学校でチラシを配ってもらいました。またそのチラシを広報さのと一緒に全戸配布してもらいました。そ

のかいあつて3500人の集客がありました。驚きましたね。しかし残念ながら400〜500人の人は購入することができませんでした。申し訳なかったと思います。仕込んでも仕込んでも売れるので、フェス中は市内のスーパードヤ肉屋さんから鶏肉が消えてしまったほどです』

★パパプロe街佐野奉行所が合同会社e街佐野奉行所になったことについて

『まさかここまでになるとは思いませんでした。合同会社は元パパプロメンバー4人と東京のコーディネーター1人の計5人で設立しました。黒から揚げ普及のため「佐野から揚げ協会」も設立されたのでそちらのサポートもしていきたいです。黒から揚げを冷凍にして全国展開すると売れると思いませんよ。そして、ソース味、スパイシーなどの黒から揚げ5条件クリアの認定も引き続き行っていきます』

佐野市一押しピックアップブランドに認定された黒から揚げ。らーめん、いもフライと並んで佐野の三大グルメになる日も遠くないそうです。そして島田さんは次のブランド認定になるような商品を考えてのことです。佐野がさらに元気になる商品開発に期待しましょう。
(市民記者 中里聖子)



市長からの

メッセージ



いよいよ7月です。梅雨明けとともに、子どもたちが待ち望んだ夏休みがやってきます。各町会とも夏祭りの準備が忙しくなってくるころでしょうか。

去年は記録的な猛暑が続き、佐野市も幾度か「暑さ日本一」となりました。今年の暑さは平年並みとの予想も耳にしますが、油断せずこまめに水分を補給するなど、皆さんそれぞれで熱中症対策をお願いします。

さて、先月2日には田沼グリーンスポーツセンターで佐野市消防操法大会が開催され、各分団の精鋭たちが全力で日頃の練習の成果を披露しました。結果、ポンプ自動車の部では第23分団が3連覇、小型動力ポンプの部では第6分団が優勝しました。参加された分団の皆さん大変お疲れ様でした。

また、先月2日から8日まで、佐野市国際クリケット場で開催された19歳以下クリケットワールドカップ(W杯)東アジア太平洋予選で、日本代表チームが優勝し、来年1月から南アフリカで開催されるW杯本戦への出場を決めるという快挙を成し遂げました。19歳以下の日本代表には、本市在住の高校生3選手が選出されており、今大会優勝の原動力となる活躍をしていました。強豪ひしめくW杯本戦でも活躍を心から期待します。

今月21日は、参議院議員通常選挙が行われます。4月に行われた栃木県議会議員選挙では、本市の投票率は全体で42.27%、県内8番目でした。今度の参議院議員通常選挙は国政に私たちの声を届ける大切な選挙です。期日前投票も手続きが簡素化しておりますので、皆さん必ず投票に行きましょう。

岡部正英





公民館のサークル活動「写経」

田沼中央公民館で写経の教室があるというので、参加してみました。講師は、中島清道先生。参加者は10人ほど。さっそくお手本を下に敷き、1時間くらい必死に「写経」しました。鉛筆、ボールペン、筆ペン、毛筆などを使いますが、そこは自由です。わずかの間ですが、集中します。そして終わった時のさわやかさが、印象に残りました。

写経の後、仏教の話などがあり、お経を読んで終了です。参加者は女性が多く、男性の方の参加もあればと思います。公民館には他にもカラオケや太極拳などのサークル活動が登録されています。ぜひ一度、こうした活動に参加されることをおすすめします。

(市民記者 福田満)



栃木県道路河川愛護功労者

奈良渚町会と堀米(菊川)町会が、栃木県道路河川愛護連合会から、それぞれ「道路愛護功労者(団体)」、「河川愛護功労者(団体)」を受賞されました。同連合会は、地域の道路および河川を快適で潤いのある空間として保全するため、道路および河川愛護活動の指導育成を目的に活動されている団体です。

受賞された奈良渚町会は、10年以上にわたり道路や側溝の清掃作業を行い、唐沢山の不法投棄ゴミを退治する「むかで退治」活動などを行っていることが評価されたものです。

同じく、堀米町(菊川)町会は、10年以上にわたり菊沢川、秋山川の河川敷草刈り、ゴミ清掃作業を行い、県のレッドデータブックに登録されている絶滅危惧種『ナガレコウホネ』の保護活動などが評価されたものです。

5月21日に栃木県公館において行われた表彰式では、町会を代表して、奈良渚町会^{たけお}は横田丈夫町会長、堀米町(菊川)町会^{ひろし}は竹澤宏町会長が、栃木県道路河川愛護連合会長である岡部正英佐野市長から感謝状を受け取りました。感謝状を受け取った2人の町会長は、それぞれ「この受賞を機に、地域の道路河川環境整備に一層取り組んでまいります」と話してくれました。

(市民記者 山崎ちか子)



感謝状を受け取る竹澤町会長(左)と横田町会長(右)

雨が降って、窪みなどに水が流れ込むと、池のような水たまりができます。水たまりは蛙にとって住み心地がよく、絶好のたまり場となります。このような水の溜まり場や窪地は、蛙ばかりでなく昔の人たちにとっても興味があつたらしく、いろいろな名称(方言)をつけました。その主なものに、クボット・ヘコミット・クボンド・ヘコンドなどがあります。これらは共通語の窪みやへこみに「ド」や「ド」(接尾語)をつけたものです。水の深いところは、フカンドともいいます。でも、最近これらの方言を使う人は、高齢者を除いてだんだん少なくなっています。

「アスコ(あそこ)のクボンドのあたりは、ヌカリットンナツテツカラ(ぬかるみになってから)、うつかりそこへ足をフンゴンドラ(踏み込んだら)たいへんだよ。遠まわりして行ガネーと、ケーツテ(かえって)時間をトラレチャーカン(時間がかかるから)ね」

「ド」や「ド」は、ところ・場所という意を表しますので、クボットは窪んでいるところをいい、ヘコンドはへこんでいるところをいいます。

小さな窪みをクボミツタマともいいます。わずかな水がたまっている程度の窪みをいいます。窪地であることを強調している場合は、「ドツ」という接頭語をつけて、ドツクボといえます。

「あの山の麓には、じめじめしたドツクボがあるんだって。その近くに、シカンボ(鹿)やいのししなどケタモン(獣)があらわれるってから、キー(気をつけなよ)」

(市民記者 森下喜一)

佐野市
ばんざい

場所をはつきりさせるために、
窪みに「ド」や「ド」をつける

今回の表紙 「クリケットU19日本代表がワールドカップ出場へ!」 U19クリケットワールドカップ東アジア太平洋予選が佐野市国際クリケット場で開催され、日本代表が見事優勝し、2020年に南アフリカにて開催されるワールドカップへの切符を手に入れました!